

【VLDB2010勉強会】

## Session 22: Moving Object Databases

担当：真野 将徳(名古屋大学)

# 論文一覽

---

- ▶ **[1] Swarm: Mining Relaxed Temporal Moving Object Clusters**
  - ▶ Zhenhui Li (University of Illinois at Urbana–Champaign, United States of America), Bolin Ding (University of Illinois at Urbana–Champaign, United States of America), Jiawei Han (University of Illinois at Urbana–Champaign, United States of America), Roland Kays (New York State Museum, United States of America)
- ▶ **[2] An Adaptive Updating Protocol for Reducing Moving Object Databases Workload**
  - ▶ Su Chen (National University of Singapore, Republic of Singapore), Beng Chin Ooi (National University of Singapore, Republic of Singapore), Zhenjie Zhang (National University of Singapore, Republic of Singapore)
- ▶ **[3] Shortest Path Computation on Air Indexes**
  - ▶ Georgios Kellaris (Singapore Management University, Republic of Singapore), Kyriakos Mouratidis (Singapore Management University, Republic of Singapore)

# Swarm: Mining Relaxed Temporal Moving Object Clusters

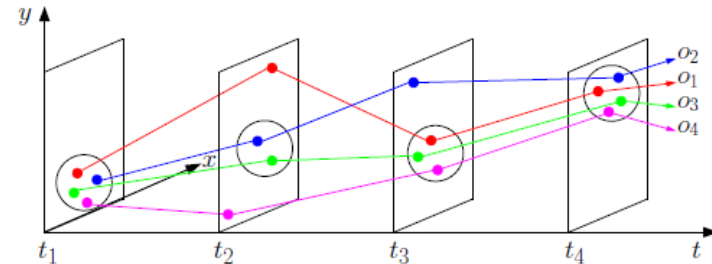
図は[1]より引用

## ▶ 移動オブジェクトのクラスタリング

- ▶ 既存手法は常に一緒に行動していなければならない
- ▶ もう少し緩いクラスタリングもあるのでは

## ▶ swarm $(O, T)$ , $|O| \geq \min_o$ , $|T| \geq \min_t$

- ▶  $O$ : 移動オブジェクト集合
- ▶  $T$ : タイムスタンプ集合

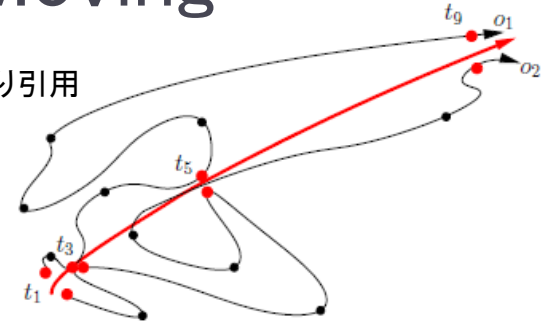


## ▶ (例)

- ▶  $o_1$ (赤)、 $o_3$ (緑)、 $o_4$ (桃)は $t_1, t_3, t_4$ で同一グループにいる
- ▶  $\min_o = 2$ ,  $\min_t = 3$  なら  
( $\{o_1, o_3, o_4\}, \{t_1, t_3, t_4\}$ )はswarm

# Swarm: Mining Relaxed Temporal Moving Object Clusters

図は[1]より引用

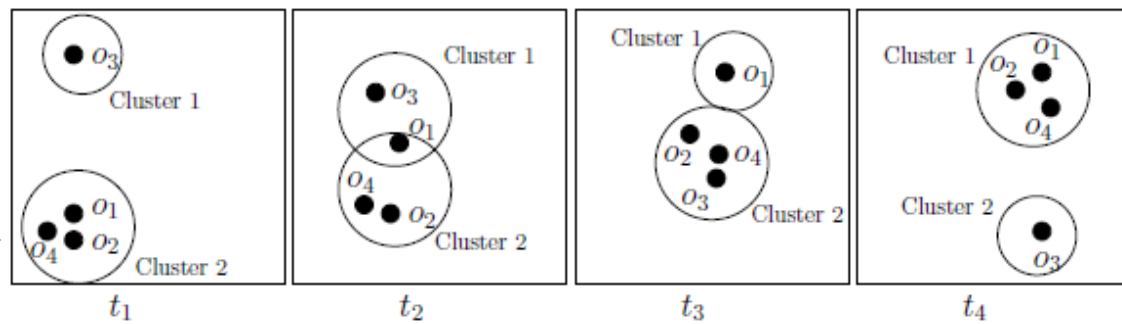


- ▶ 軌跡でも同様の定義ができる
- ▶ 右の二つの軌跡
  - ▶  $\min_o = 2, \min_t = 3$  なら  $(\{o_1, o_2\}, \{t_1, t_3, t_5, t_9\})$  は swarm
- ▶ ObjectGrowth
  - ▶ オブジェクト空間における深さ優先探索
  - ▶ 最大時間集合  $T_{\max}(O)$ 
    - ▶ あるオブジェクト集合  $O$  について、 $O$  が同一のクラスタであるタイムスタンプの最大集合 (例: 上の軌跡の  $T_{\max}(\{o_1, o_2\}) = \{t_1, t_3, t_5, t_9\}$ )
  - ▶ 操作
    - ▶ 前方枝刈り
      - $T_{\max}(O) \leq \min_t$  ならば、それ以下の部分木を刈り取る
    - ▶ 後方枝刈り
      - $(O, T_{\max}(O))$  にいくつかのオブジェクトを加えて発見済みになるなら刈り取り
    - ▶ 前方閉塞チェック
      - 一度 swarm であると思われたものが、さらによい swarm の部分集合でないかチェックする

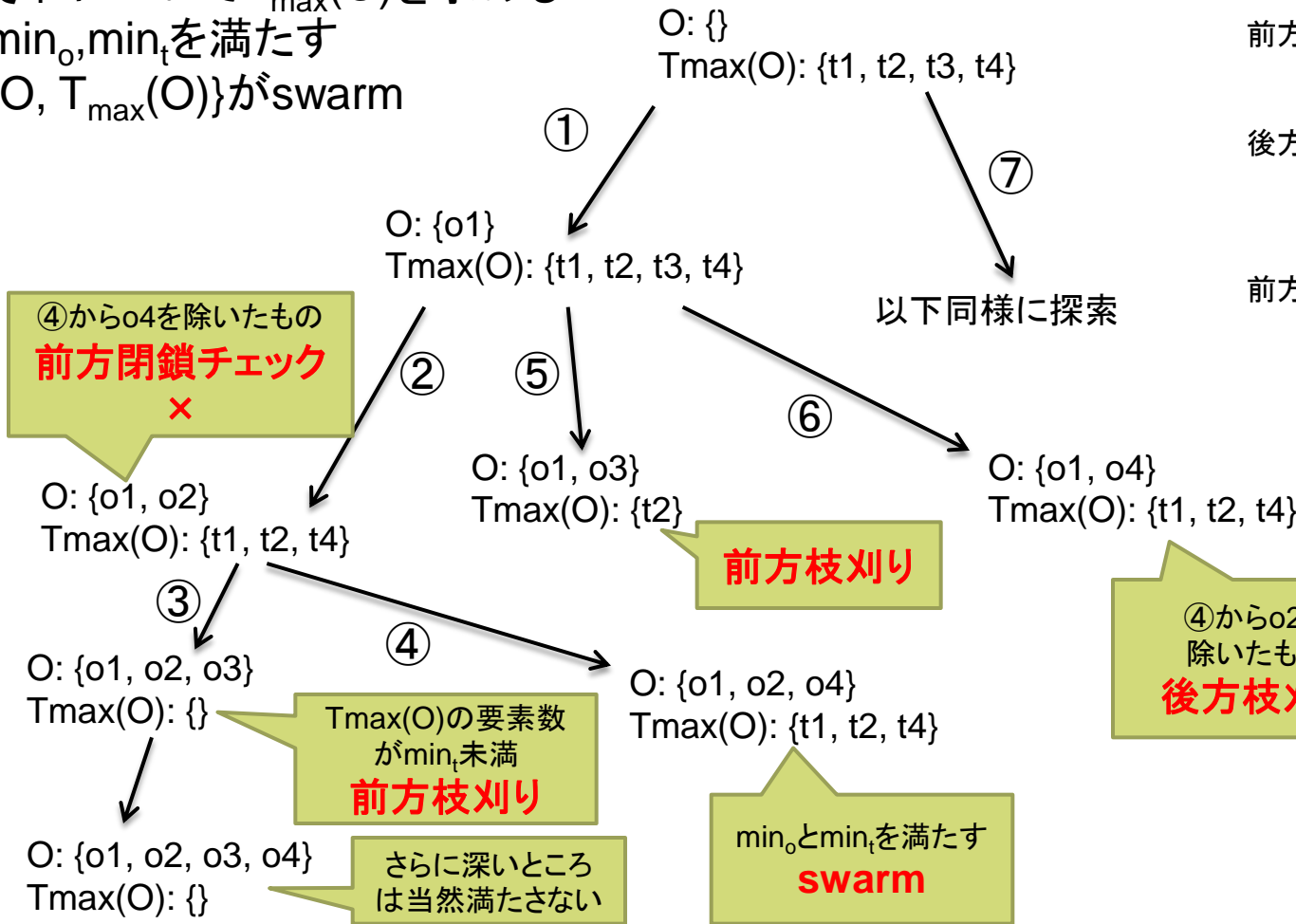
# 例

図は[1]より引用

$$\min_o = 2, \min_t = 2$$



- Oにオブジェクトを深さ優先で追加
- それについて $T_{\max}(O)$ を求める
- $\min_o, \min_t$ を満たす  $\{O, T_{\max}(O)\}$ がswarm



前方枝刈り  
 $T_{\max}(O) \leq \min_t$ ならば、  
 それ以下の部分木を刈り取る

後方枝刈り  
 $(O, T_{\max}(O))$ にいくつかのオブ  
 ジェクトを加えて発見済み  
 swarmになるなら刈り取り

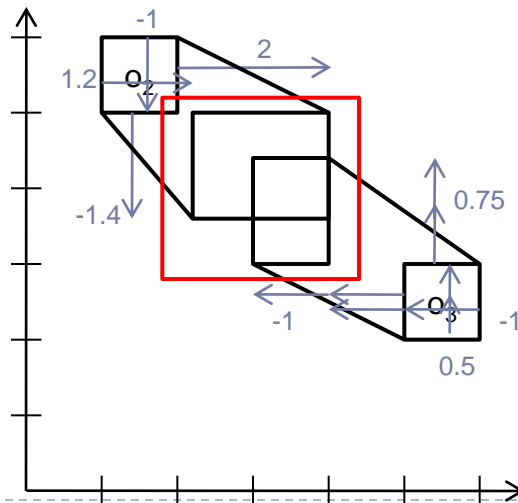
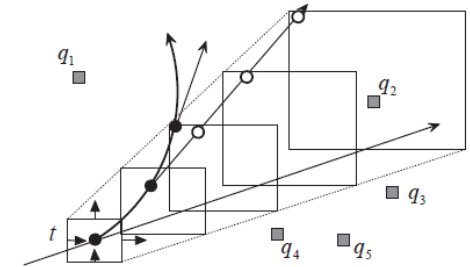
前方閉塞チェック  
 一度swarmであると思われたも  
 のが、さらによりswarmの部分  
 集合でないかチェックする

# An Adaptive Updating Protocol for Reducing Moving Object Databases Workload

- ▶ 時空間データベースにおける良い索引構造
- ▶ STSR: Spatio-Temporal Safe Region
  - ▶ 位置と速度について、可能性のある値を示す時空間領域

[LR.x<sub>t</sub>, LR.x<sub>f</sub>], LR.y<sub>t</sub>, LR.y<sub>f</sub>      reference time      expiry time

STSR	LR	VR	t <sub>r</sub>	t <sub>e</sub>
R(o2)	[1, 2] x [5, 6]	[1.2, 2] x [-1.4, -1]	2	5
R(o3)	[5, 6] x [2, 3]	[-1, -1] x [0.5, 0.75]	1	5



- ▶ t = 3 のときのSTSR
- ▶ LRからVR(t-t<sub>r</sub>)だけのばす
- ▶ 範囲問合せを対象とする
  - ▶ 問合せ結果の予測ができる

# 更新

---

- ▶ 効率的な運用のためには更新をどのようにおこなうかも重要
- ▶ 能動的更新
  - ▶ 各オブジェクトはタイムスタンプごとにSTSRと異なる移動をしていないかチェックする
    - ▶ あたらしい移動になったらそのことをサーバに通知
    - ▶ サーバはSTSRを更新し、新しいSTSRをオブジェクトに伝える
- ▶ 受動的更新
  - ▶ 範囲問合せがされたときに発生
  - ▶ 予測範囲問合せでは結果の対象となるオブジェクトが、実際には範囲外にいた時にそれにあわせて更新する

# Shortest Path Computation on Air Indexes

図は[3]より引用

## 無線環境における最短経路検索

- ▶ ロードネットワークをグラフにし、 $v_s$ から $v_t$ への最短経路
- ▶ 二つの手法を紹介

## ▶ EB法(楕円境界法)

### 1. ノード群を領域に分解する

- ▶ kd木を利用

### 2. リージョン間の最大/最小距離

- ▶  $n \times n$ 配列で事前に計算しておく

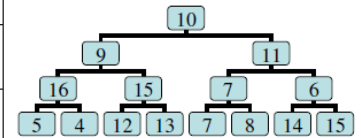
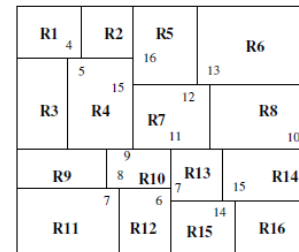
### 3. リージョンと距離情報を順番にブロードキャスト

### ▶ $R_s (\in v_s)$ から $R_t (\in v_t)$ の最短経路

- ▶  $\text{Min}(R_s, R) + \text{Min}(R, R_t) \leq \text{Max}(R_s, R_t)$ なRは通る可能性あり

### ▶ 例: R1からR5への最短経路検索

- ▶  $\text{Max}(R1, R5) = 7$
- ▶ R2を通ると $\text{min}(R1, R2) + \text{min}(R2, R5) = 1 + 1 \leq 7 \dots$  R2は通るかも
- ▶ R3を通ると $\text{min}(R1, R3) + \text{min}(R3, R5) = 6 + 2 > 7 \dots$  R3は通らない



R1	R2	R3
R4	R5	R6

	R1		R2		R3		R4		R5		R6	
	Min	Max	Min	Max	Min	Max	Min	Max	Min	Max	Min	Max
R1			1	5	6	8	1	4	3	7	8	9
R2	1	5			1	3	2	5	1	2	2	4
R3	4	6	1	3			5	8	2	4	1	4
R4	1	3	2	4	5	8			2	3	4	7
R5	3	6	1	3	2	4	1	3			1	2
R6	7	9	2	4	1	2	5	6	1	3		



# Shortest Path Computation on Air Indexes

図は[3]より引用

## ▶ NR法

- ▶  $R_m$  のインデックス  $A^m$  は  $n \times n$  配列
- ▶  $A^m_{R_i, R_j}$  は  $R_i$  から  $R_j$  への最短経路で通る領域  $R_{nxt}$  を指す
- ▶ 領域情報とインデックスは順番にブロードキャストされる
- ▶  $R_1$  から  $R_{25}$  への探索時に受け取った  $A^{12}$  が右のものだとする
  - ▶ 最短経路は  $R_{13}$  を経由するかも
  - ▶  $R_{13}$  と隣接インデックス  $A^{14}$  を取得
  - ▶  $A^{14}$  には  $R_{14}$  も経由するかも
    - $R_{14}$  と  $A^{15}$  を取得
  - ▶  $A^{15}$  のインデックス
  - ▶  $R_{19}$  と  $A^{20}$  がブロードキャストされるまで待つ
- ▶ これを繰り返すと必要な領域が判る
- ▶ NR法はEB法より良い性能を示す

12 <sup>th</sup>	$R_1$	$R_2$	...	$R_{24}$	$R_{25}$
$R_1$		$R_1$		$R_{13}$	$R_{13}$
$R_2$	$R_1$			$R_{13}$	$R_{13}$
⋮					
$R_{24}$	$R_{13}$	$R_{13}$			$R_{24}$
$R_{25}$	$R_{13}$	$R_{13}$		$R_{24}$	

15 <sup>th</sup>	$R_1$	$R_2$	...	$R_{24}$	$R_{25}$
$R_1$		$R_1$		$R_{19}$	$R_{19}$
$R_2$	$R_1$			$R_{19}$	$R_{19}$
⋮					
$R_{24}$	$R_{19}$	$R_{19}$			$R_{24}$
$R_{25}$	$R_{19}$	$R_{19}$		$R_{24}$	

	$R_1$	$R_2$	$R_3$	$R_4$	$R_5$
	$R_6$	$R_7$	$R_8$	$R_9$	$R_{10}$
	$R_{11}$	$R_{12}$	$R_{13}$	$R_{14}$	$R_{15}$
	$R_{16}$	$R_{17}$	$R_{18}$	$R_{19}$	$R_{20}$
	$R_{21}$	$R_{22}$	$R_{23}$	$R_{24}$	$R_{25}$